

ぼくの宿題先生へ

阿部 功希

四月から、ぼくの宿題先生が代わりました。わからない所を教えてほしいとお願いですと

「えつ、どこ？ 何がわからないの？」

と言いながら、ネクタイを外してYシャツもズボンもぬいで、ランニングシャツにパンツ姿で宿題を教えてくださいました。

「ここをよく見てもう一度解いてみて。」

と言ってお風呂に行きます。先生は、中学一年の兄ちゃんです。

前の宿題先生のお父さんは仕事で単身ふ任になりました。

そこで兄ちゃんが、

「今度から、功希のことよろしくな。」

と新しい宿題先生に任命されました。

「えーっ。なんでこうなるの、ちゃんと考えてる？」

とずばつと言われるとちよつとむかむかしてきて、

「そんなに言わなくてもわかってるよ！」

と言い返してしまい、兄ちゃんをむつとさせてしまいます。

するとつかれた顔で、

「じゃあ、お風呂入ってくるからやってね。」

とためいきをついて行ってしまいます。

「しまった。まちがいをずばつとしてきされて、いらつとしました。」とはつとします。ぼくはむねがもやもやして口の中が苦いような感じがします。

兄ちゃんは、部活のあと重い荷物をしょって、電車に間に合うように自転車をとばして急いで帰ってきます。帰ってきたら、自分の課題もあるのに、ぼくに宿題を教えたり、学校の行事などのことも相談にのつてくれます。ただ、ちよつとさみしがりやでぼくが一人で本を読んだり、ゲームをしている時も話しかけてきたり、かまってくるのでそういうところは少し困ります。

ぼくは、気持ち言葉をたいどで表現するのが苦手です。それでも言葉にしてきちんとありがたうを伝えるのは大切です。だから、先生にきちんと伝えようと思います。

兄ちゃん先生いつもありがたう。本を読んでいる時にかまわれるのは少しこまるけど、つかれていてもいろいろしてくれるので感謝しています。生意気な弟だけどこれからもうずつとよろしくね。